

今治城のご案内



- 今治北IC(瀬戸内しまなみ海道)から車で約15分
- 今治湯ノ浦IC(今治小松自動車道)から車で約20分
- JR予讃線 今治駅からせとうちバス「今治営業所行き」で約9分「今治城前」下車



ご観覧のご案内

観覧料金 (天守/御金櫓/山里櫓/鉄御門・武具櫓の共通券)

- 一般/500円 ● 学生/250円
- 団体(20人以上)及び高齢者(65歳以上)2割引
- 高校生以下または18歳未満 無料
- 各種の免除・割引についてはお問い合わせください

駐車料金

- 乗用車 1時間100円
- バス 2時間まで500円
- 2時間以降は1時間250円 (事前申込必要)

開館時間 ● 9:00~17:00

休館日 ● 12月29・30・31日

お問い合わせ先

今治城管理事務所

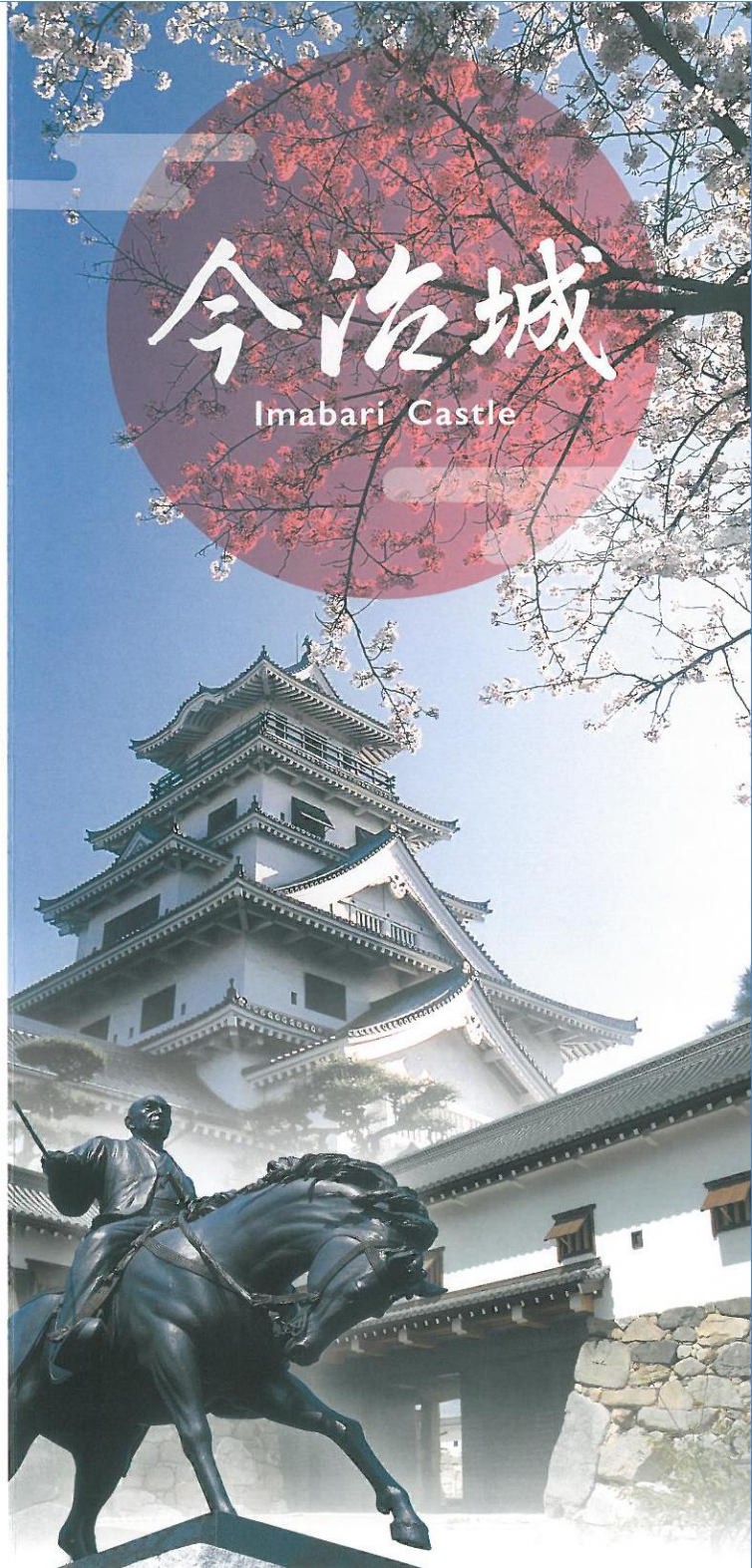
〒794-0036 愛媛県今治市通町3-1-3

TEL 0898-31-9233 FAX 0898-31-9235

<http://museum.city.imabari.ehime.jp/imabarijo/>

今治城

Imabari Castle





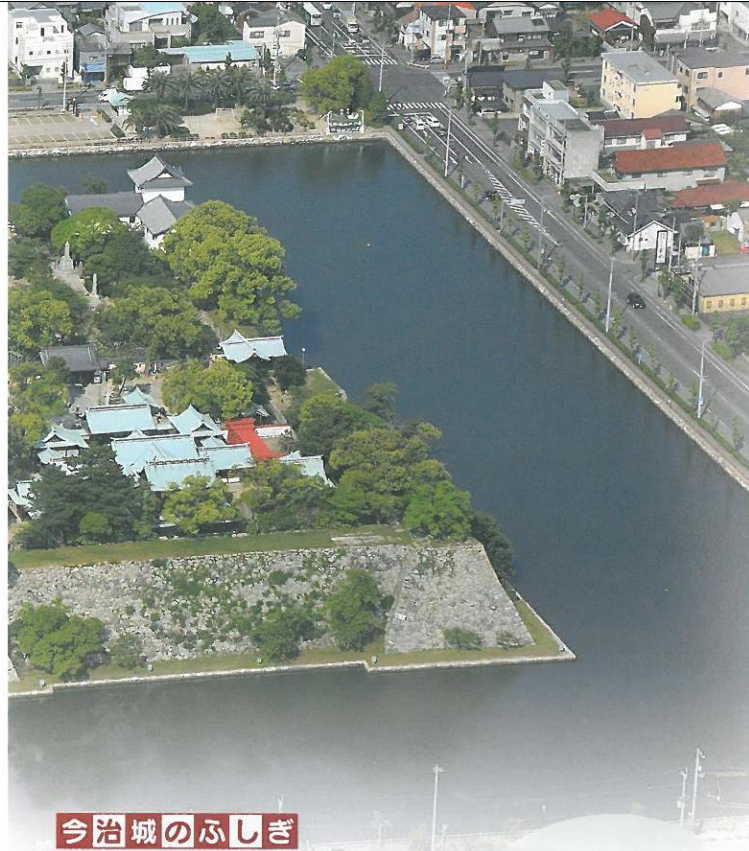
いまばりじょう 今治城の歴史

今治城の地は瀬戸内海に面し、「吹揚の浜」と呼ばれた砂丘地帯でした。

築城の名手として名高い藤堂高虎は、関ヶ原の戦功で伊予(愛媛県)半国20万石を領し、慶長7年(1602)にこの地に築城を開始しました。約6年の歳月をかけて慶長13年頃に完成したと考えられています。

高虎はその直後、伊勢・伊賀(三重県)に移り、今治城には養子の高吉が在城します。寛永12年(1635)には伊予松山城主松平(本姓は久松)定行の弟の定房が3万石で今治城主となり、明治維新まで続きました。

明治時代になって城の建物は全て解体されましたが、城の中心部の石垣と内堀がほぼ完全に残っており、昭和28年(1953)に愛媛県史跡に指定されました。現在では天守をはじめとす櫓・城門などの再建が進み、雄大な城郭の姿を見えています。



今治城のふしぎ



石垣に使われている大理石

●石垣のふしぎ

今治城の石垣には白くてつやのある石が混じっています。これは大理石で、石垣に使われるのは珍しいことです。所々に空いている穴は貝が空けたもので、もともと海岸にあった石が使われたことを物語っています。



堀で泳ぐチヌ(黒鯛)

●堀のふしぎ

今治城の堀は海につながっていて、潮の満ち引きによって水位が変わり、ボラやチヌ(黒鯛)などの海水魚がたくさん泳いでいます。また、堀底から真水が湧いているところがあり、淡水魚のメダカもいます。多様な生物が生息するとても珍しい堀です。



藤堂高虎銅像

●藤堂高虎銅像のふしぎ

武将の像では珍しく、平服姿の騎馬像です。時代を先取りし、平和な時代の城づくりや城下町の発展を考えた高虎に相応しい姿です。平成16年(2004)に制作され、今治城のシンボルになっています。

“築城の名手”藤堂高虎の最高傑作

今治城の特徴は

これだ!!

単純な城の形

これまでの迷路のような複雑な形の城と比べ、四角形を基本とする単純な形になっています。築城工事が容易になり、城内の土地を広く確保できるなど、効率的な城づくりや平時の生活に適した形になっています。

広い水堀と高い石垣で守る

城の形が単純であるため、各所に守りを固める工夫をしています。内堀は幅が50~70mもあり、弓矢の射程距離を上回る広さになっています。石垣の高さは9~13mで、砂の上に立つ石垣としては驚異的な高さです。石垣の周りにある細長い平地「犬走り」は、地盤を強化するために設けられたと考えられます。



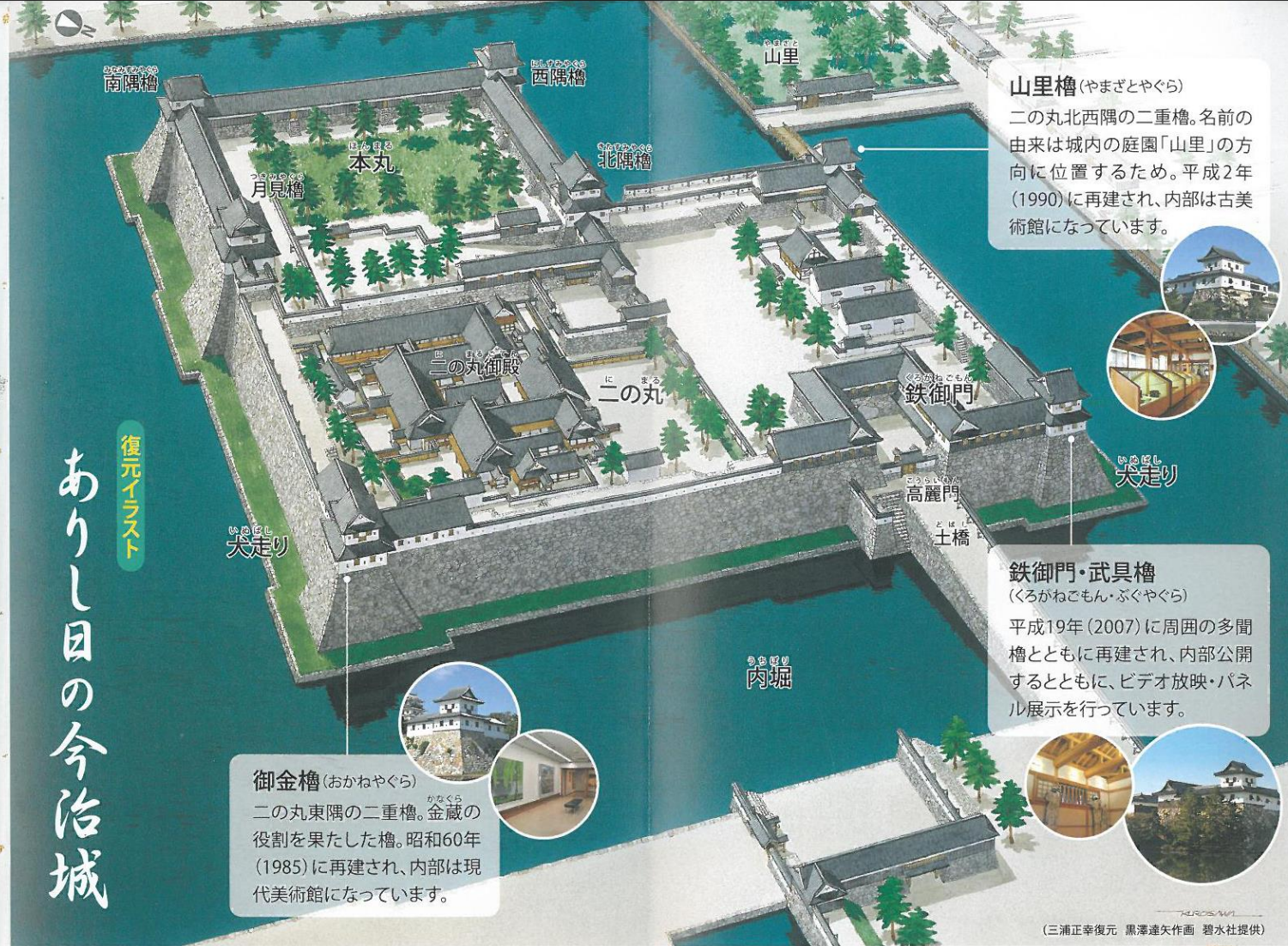
枅形虎口と鉄御門

枅形虎口とは、石垣や土塁で囲まれた四角形の広場(枅形)をともなう城の出入口(虎口)のことです。特に堅固にする場合は内側と外側に2門を設け、周囲を長屋状の櫓(多間櫓)で囲みました。この形は史上初めて今治城で完成し、各地の城に普及しました。

今治城の正門にあたる鉄御門は、この最も堅固な枅形虎口の内側の門です。名前は扉や柱に貼られた鉄板に由来し、格式の高い城にしかない特別な城門です。



復元イラスト
ありし日の今治城



山里櫓 (やまざとやぐら)

二の丸北西隅の二重櫓。名前の由来は城内の庭園「山里」の方向に位置するため。平成2年(1990)に再建され、内部は古美術館になっています。



鉄御門・武具櫓 (くろがねごもん・ぶぐやぐら)

平成19年(2007)に周囲の多間櫓とともに再建され、内部公開するとともに、ビデオ放映・パネル展示を行っています。



御金櫓 (おかねやぐら)

二の丸東隅の二重櫓。金蔵の役割を果たした櫓。昭和60年(1985)に再建され、内部は現代美術館になっています。



史上初の層塔型天守

創建時の五層天守は、各階を順次小さくして積み上げる史上初の「層塔型」でした。従来の望楼型と比べて構造が単純で容易に建立できるため、その後の天守のモデルになりました。慶長15年(1610)に丹波亀山城(京都府)に移築されました。現在の天守は、本丸跡の北隅に昭和55年(1980)に再建した模擬天守(五層六階)で、内部は歴史資料館と自然科学館になっています。最上階からは今治平野・瀬戸内海・四国山地を一望することができます。



日本屈指の海城

かつては内堀・中堀・外堀の三重の水堀で囲まれ、堀には海水が流入していました。中堀の端は広い港湾になっており、城内の港としては日本最大でした。その場所は現在の今治港になります。今治城の構えは海を意識しており、瀬戸内海を監視する役割があったと考えられます。

